



愛知県議会議員 国・県・市をつなぐパイプ役に!

平松としひで

県政
報告
令和3年4月号



ジブリパークが2022年秋に開業します!

愛知県令和3年2月定例議会にて予算成立。2022年2月までに本体工事が完了し、引続き展示・演示工事を実施。「青春の丘エリア」「ジブリの大倉庫エリア」「どんどこ森エリア」の3エリアが先行して2022年秋に開業、「もののけの里エリア」「魔女の谷エリア」が概ねその1年後に開業します。

スタジオジブリ作品の世界観を表現 5 エリアの開業

2022年秋 3エリア開業予定

青春の丘エリア

来場者を迎え、導く
ジブリパークの象徴

ジブリの大倉庫エリア

ジブリ作品等の保管・保存、
展示と遊びと憩の空間

どんどこ森エリア

サツキとメイの家と
自然空間



もののけの里エリア

あいちサトラボと
一体となった体験の場

魔女の谷エリア

ジブリ作品の体験を通した
展示と遊び、休憩等の複合的空間

3エリア開業概ね1年後

2エリア開業予定

ジブリの大じゃない博覧会の展示作品より



ジブリの大博覧会

～ジブリパーク、開園まであと1年～

開催決定!!

本年7月17日から9月23日まで、
愛知県美術館にて開催されます



先の愛知県議会2月定例会(2/19～3/25)では、本会議場に登壇し一般質問、議案質疑に立ち、所属委員会でも多数の質疑や提案を行いました。皆さまの声を積極的に県政へ届けます。

令和3年2月定例会 本会議 一般質問

不妊治療の支援

平松利英 質問 コロナ禍により異常事態と言える急速な少子化が進行している。出産は強要できないが、子どもを産みたくても授けられない人たちを公助により助けることはできる。来年4月からは保険適用となる見込みだが、妊活するカップルにとり1年は長く、1ヶ月が勝負という方へ寄り添う姿勢が必要。子どもを持ちたいと希望される方の悩みは様々。本県の支援について伺う。

答弁 国は特定不妊治療費助成事業について所得制限の撤廃や助成額の増額等を行った。これに合わせ本県独自の取組みである一般不妊治療費助成事業を拡充。また経済支援に加え、県では不妊症や不育症に悩む方が治療前に抱く不安や疑問に対応し、治療中のセカンドオピニオンの役割を担う相談窓口を設けるなど取組んでいる。



コロナ禍での少子化の進行は著しく、その実態を予測する手段として、昨年の婚姻数や、昨年後半の妊娠届出数を元に、予測が可能となります。

下記表は外国人を含む速報値のため、日本人に限定すると2020年の出生数は84万人を割り込む可能性があります。更に2021年においては、2020年の婚姻数が7.8万組減、昨年5月～10月の妊娠届出数は同期比8.2%減となっており、77万人前後まで落ち込む計算となるなど少子化が急加速していることが分かります。

【2020年の出生・婚姻状況(外国人含む速報値)】

人口動態速報	2018年	2019年	2020年
出生数(確定値)	950,832 (918,400)	898,600 (865,239)	872,683 (840,000?)
婚姻数	602,735	615,652	537,583

2020年の確定値はまだ未発表。84万人前後と予測されています。2021年の出生数確定値は77万人前後と急激な減少予測も。

木材利用の促進

平松利英 質問 コロナ禍により在宅時間が長くなり、住宅に求められる快適さや癒やしが重視、木材の良さが注目されている。健全な森林を維持することは、水源の涵養や土砂災害、地球温暖化の防止などにつながる。「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用は、SDGsの達成や脱炭素社会の実現に貢献する。持続可能な社会の実現に向け、需要の多い都市部における木材利用の促進に、県としてどう取組んでいくのか伺う。



答弁 県では、率先して木材利用に取り組み、市町村職員等を対象に木材利用に関する研修も実施。さらに民間施設での利用促進を進めるため、商業施設や子育て支援施設など県産木材利用に対して助成を行っている。木造建築技術者を育成する講座を開設し、更に新たな取組みとして県産木材の利用を促進する上での技術面、流通面、コスト面の長所・短所を洗い出し、戦略的な対応策の検討を進めていく。本県は木材の生産地であり消費地でもある。しっかり取り組んでいく。

知事答弁 昨年度の全国植樹祭は天皇陛下からお言葉を賜るなど感動的な植樹祭でした。「木の香る都市づくり事業」の支援先の1つである「あおぞら学童保育クラブ」は木造施設の良さや木に囲まれて生き生きと過ごす子供たちの様子をSNSで発信。これを機に木造施設の取組みが県外にも広がっている。民間による情報発信の重要性を実感。愛知県新体育館は設計に隈研吾氏が携わり、施設デザインは名城公園の木々と調和し、緑の一体感を創出する「樹形」のアリーナとする提案をいただいた。今後も様々なところで木材利用が進むよう、官民挙げてしっかり取組む。

尾張西部の幹線道路整備

平松利英 一宮稲沢北ICが3月末に開通する。その整備効果はどう考えているか伺う。

次に、一宮IC～一宮JCT間の渋滞緩和に向け6車線化増設対策が進み、国道22号の渋滞緩和に資する名岐道路の計画が大きく進展している。名岐道路の中間ICが両郷町に設けられるが、整備後は中間ICと小牧ICを結ぶ国道155号バイパス利用車両が増大するため、この区間の4車線化が必要。また一宮市中心市街地から名古屋高速を利用する入口へ接続する東西線はいずれも激しい渋滞を引き起こしている。市中心市街地から中間ICを利用するため、国道155号バイパスを県道一宮各務原線まで整備延長するなど先を見越した整備計画が必要。今後の取組方針を伺う。

答弁 一宮稲沢北IC開通により、稲沢市方面から15ヶ所の信号や踏切を通過せず利用可能に。一宮市南西部からのアクセス性、利便性が格段に向上し広域的な交流促進や物流効率化が図られ、周辺道路の渋滞緩和が期待され、産業拠点の形成、地域の活性化にも寄与する。

名岐道路の整備効果を尾張西部地域全体に波及させるためには議員指摘のとおり中間ICへのアクセス強化を図る必要があり、その主要な道路は国道155号バイパスとなる。江南市五明町交差点から国道22号までの約4キロ区間の4車線化整備が必要。国道22号の西側は未整備であり、市中心市街地から中間ICへのアクセス道路として一定区間の整備が必要と考え、取組みを進めていく。



一宮市が引き続きこの地域の中心的役割を果たし、さらに活力ある都市となるためには、渋滞対策等、道路整備による人流、物流の効率化が重要です。また名岐道路計画が大きく進展しており、155号バイパス4車線化整備は今から準備していかなば間に合いません。地元の声が届き、整備に向けた取組みを進めるとの答弁を引き出すことができました。

母子家庭等自立支援対策費

平松利英 コロナ禍によりパート、アルバイトなど非正規就労のひとり親家庭は生活面の不安から落ち着かない毎日を過ごしている。県は年末年始を安心して過ごしていただくよう給付金を支給した。

コロナ禍で困窮するひとり親家庭にとって欠かせない経済支援であった。しかし給付金は一時的な措置に過ぎず、自立した暮らしのためには安定した職に就ける支援が重要であると考えます。

希望する仕事に就くために必要な職業スキル等を習得し、経済的に自立できる支援が必要だ。またコロナの影響による雇止めなど雇用情勢が悪化するなか、就労支援にどう取り組んでいくのか伺う。

答弁 本県では愛知県母子寡婦福祉連合会に委託し、就業支援専門員による就業相談や就職に必要な技能習得のための講習会等を実施している。

さらに、昨年10月からSNSにより企業等の求人情報を提供するサービスを開始。また看護師や保育士など就職に有利な資格を取得するため修学している間の生活費を支給し、養成機関への入学準備金や就職準備金の貸付を行っている。

令和3年度は就業支援専門員を増員し、相談支援体制を強化する。さらに、最長1年分の家賃を無利子で貸付ける制度を創設し、就職活動期間中の生活基盤の安定を図る。今後もひとり親の就労を支援していく。



県民環境委員会では

- ・国際芸術祭「あいち2022」開催準備費
- ・温暖化防止県民運動推進事業費

について質問しました。



私の質問が新聞に掲載されました



暫定 2車区間

4車化と延伸必要



4車線化の対象区間は、江南市内の五明町交差点から一宮市内の名岐道路中間インターチェンジ(IC)仮称予定地に至る延長約4キロ。現在は暫定2車線で整備されており、4車線に拡張する。中間IC(国道22号)以西は、高架構造で整備する。計

＝愛知県＝
愛知県建設局の鎌田裕司局長は5日、名岐道路を見据えた尾張西部地域の国道155号バイパス(BP)整備について、暫定2車区間の4車線化と、さらに西側に一定区間の延伸整備が必要とする考えを示した。2月定例議会で平松利英議員(自民党)の質問に答えた。

尾張西部155号バイパス整備

画では途中、一宮市両郷町付近で中間ICを設ける。名岐道路が完成した場合、国道22号の渋滞緩和が期待される一方、中間ICから名神高速道路小牧ICに向かうため、国道155号BPを利用する車両が大幅に増えることが予想される。

鎌田局長は、「名岐道路の整備効果を尾張西部地域全体に波及させるためには、中間ICへのアクセス強化(155号BPの4車化、延伸を図る必要がある。周辺道路の交通状況を見極めつつ、整備計画を着実に進めることを強く求めた。」

県議会

県は不妊治療に関し、一五年度から五年間の年平均で約三千五百組の夫婦が人工授精を行い、県が約四千四百万円を補助したと明らかにした。今年一月からは人工授精や高額な医療費となる体外受精、顕微授精の助成で所得制限を撤廃し、事実婚も追加するなど対象を拡充している。平松議員の質問に答えた。

中日新聞(令和3年3月6日)県内板

建通新聞中部(令和3年3月8日)1面トップ記事

皆様のご相談・お困りごとをお聞かせ下さい

愛知県政に関わるご相談はもとより、危険な場所、不便な個所、災害対策、子育ての課題、高齢者のサポートなど、何でもご相談ください。皆様の声をカタチにするため、平松としひでが迅速に対応いたします。お気軽にご連絡ください!



愛知県議会議員

平松利英

Mail : info@hiramatsu-net.com



Facebook

平松利英県政事務所本部

〒491-0811
一宮市千秋町加納馬場字松下66-1
TEL:0586-64-7951
FAX:0586-64-7952

平松利英県政事務所

〒491-0911
一宮市野口2-12-1 日幸ビル3F
TEL:0586-52-5551
FAX:0586-52-5651

日々の活動報告はFacebookにて発信中!

※共に平日10:00~15:00です。時間外及び土日祝日は事前連絡願います。